

# はつらつ座安っ子



【学校だより: 令和3年9月 第5号】  
豊見城市立座安小学校 校長: 具志直哉

なかよく かしこく たくましく

～主体的に他者と協働し、豊かな学び方を身に付け、夢や目標を持って生きる子～

座安小学校の全職員は、子どもたち1人ひとりを認め、受け入れ、持っている「可能性を拓き伸ばす教育」の実践をめざし、全力でがんばります！

## 6月に実施した児童アンケートを振り返って（報告）！

～子どもたちの現状を知り、今後の教育活動へ生かしていきます～

6月に実施した児童アンケートの内容は、本校で育成したい「めざす児童像」です。そして子ども達にとっては目標となります(4月の授業で子ども達にも伝えてあります)。保護者アンケートとも連動していますので、子育ての指針に加えて下されば幸いです。より学校と連携した指導につながります。

さて、アンケート結果の見方ですが、評定(4段階評価)と割合(「ハイ」と肯定的に答えた%)で以下のように評価していきます。

◎「十分達成(満足)である」…割合が90%以上 評定3.5以上

→「強み」、子ども達の自信へ

○「おおむね達成(満足)である」…割合が80～89% 評定が3.2～3.4

→ほめ、認め、さらに向上

△「達成できていない」…割合が65～79% 評定が2.9～3.1

\*要注意 改善策検討

×「問題である。改善が必要」…割合が64%以下 評定が2.8以下

→「弱み」、具体的改善策全校実践

※右表の右側は昨年度11月の割合と順位を記しました。80%以上はおおむね満足の評価なので背景を青色で表示し、79%以下は赤で表示しています。(ホームページ(HP)のカラー版でご覧頂けます)また昨年よりも評価が良い項目は青色文字で、低くなった項目は赤色文字で表示しています。

ご覧頂くと青色(80%以上)が多いことに気づきます。昨年度は10位までが青色表示でしたので、評価が高くなっていることがわかります。保護者の皆様におかれましては、右表をお子様とご覧になり、何ができて、何が課題で努力することなのか等々、親と子のより良い会話の材料にいただければと思います。

さて評価は、より良い指導につながるエビデンスにしていくことが重要です。良さも課題も適格な診断(原因と具体的な手立ての明確化)により、指導と支援を通してさらに伸ばし、改善をしていくわけです。

## 今回の児童アンケートで、重点的に改善していきたい課題項目は、「自分には良いところがあることを知っていますか」では！

この項目は、今年度新たに挿入した項目です。肯定的な回答の割合が57%、評定は2.7とかなり低い結果となりました。問題であり、改善が必要です。私はこの結

## 児童用アンケート集計(全学年)R3/6

	質問項目	評定	肯定回答の割合	令和2年度
1位	4 清掃や係の活動など、進んで働いていますか。	3.5	96%	3位 91%
2位	7 わかろうとする気持ちを持って、授業に進んで参加していますか。	3.5	95%	6位 88%
3位	2 当番や係活動など、友だちや仲間と協力して活動することができますか。	3.5	94%	2位 93%
4位	10 授業の内容は、よくわかりますか。	3.5	92%	5位 89%
4位	3 先生や友だち、仲間などの話をしっかり(相手を見て、最後まで)聞いていますか。	3.3	92%	8位 87%
6位	19 楽しく話せたり、進んだりするお友達や仲間はいませんか。	3.6	91%	9位 86%
7位	1 学校は、楽しいですか。	3.4	90%	7位 87%
8位	16 自分で立てた目標に向かって、努力していますか。	3.3	89%	9位 84%
9位	20 学校や学級のルールを守り、安全に気をつけて行動していますか。	3.3	87%	8位 89%
10位	8 授業では「自分は、こう思う」と自分の考えを持って参加していますか。	3.3	85%	14位 77%
11位	14 給食は、好き嫌いをなく食べていますか。	3.3	82%	11位 79%
12位	13 相手の目を見て、はっきりとした声であいさつしていますか。	3.3	81%	10位 80%
13位	6 友だちや仲間には「ふわふわ言葉」など、やさしい言葉遣いをしていますか。	3.2	80%	12位 78%
13位	5 先生や大人の人には「です」「ます」など、いい言葉遣いをしていますか。	3.2	80%	15位 76%
15位	12 家庭学習は、予習や復習をしたり、読書をしたりなど、工夫してやっていますか。	3.1	75%	17位 74%
16位	11 読書することが好きですか。	3.0	71%	13位 77%
17位	17 担任の先生とお話していますか。	3.0	69%	16位 74%
18位	15 自分には良いところがあることを知っていますか。	2.7	57%	
19位	9 授業では、自分の考えを仲間に伝えたり、発表したりしていますか。	2.6	51%	6位 65%
20位	18 担任の先生以外に、お話や相談できる先生はいませんか。	2.5	49%	19位 61%

果を見て、「強みの無知」という心理学用語を思い出しました。私もついそうなりがちですが、自分の短所や直すべき弱点などはすぐに答えることができるのに、自分の良さや強みとなると…はてな?となってしまう…、あの心理状態です。「強みの無知」は、自己有用感を低くする要因の一つと考えられています。

経営学者のピーター・ドラッカーは「何かを成し遂げられるのは、強みによってである。弱みによって何かを行うことはできない」と言っています。

自分の良さや強みに無知になってはいけません。

さて診断要素としては、コロナ禍の中でどうしても学校行事や人との関わりを伴う活動が制限されてしまうことや、学校休業、そして休日もコロナ禍の中で家庭での旅行や行楽、レジャーができない状況等が大きいと感じます。また子ども達の活躍の場が制限され、認められる機会が少ない、賞賛不足などもあるでしょう。

そんな負の状況を改善する手立てとして本校では、修学旅行を体験重視で3回の日帰り体験学習を計画したり、宿泊学習や運動会等への取組を子ども達のアイディアや主体的な取組を生かしたりして進めようとしています。また、今後の行事等への取組を生かしたキャリアパスポート(自分を振り返る日記のようなもの)の推進、児童会を中心に全校児童で行事等への取組のテーマを決めたり、運動会への取組の良さを児童相互で認め合える計画など、子ども達が活躍し認めほめ合える取組が計画され、実践されようとしています。

大切なことは普段の生活。教師は普段の授業を通して、家庭では親と子の会話等を通して、良さも悪さも認め合う中で、子ども達の自己有用感を育てていきたいです。

